

タキタロウは幻か？ —大鳥池の生態系—

津軽白神森林生態系保全センター 専門官 有本 実

本誌今年度5月号『我が署の名所』で紹介された、山形県は朝日山地の大鳥池。伝説の巨大魚・タキタロウの生息地として有名ですが、タキタロウは実在する！と本気で狙う釣り馬鹿が世の中にはいるもので、かくいう私もその一人です。

8月中旬に大鳥池をルアーで攻めると、30cm前後のイワナがコンスタントに釣れました①。池に流れ込む中ノ沢も餌釣りで調べたところ、下流から3つ目の滝までイワナが生息していました②。池のイワナは頭が小さく丸みを帯びた体型ですが、餌の豊富な池で急速に成長したのでしょうか。一方沢のイワナは、強い流れに適応するために発達した大きな尾ビレが目を引きまます。恐らく①のタイプが将来のタキタロウ候補でしょう…『タキタロウ=突然変異で巨大化したイワナ』だと私は妄想していますが、いかがでしょうか？

大鳥小屋の親父さんによると、イワナの餌として池にアブラハヤ③を放流しているとの事。ところが晩の肴用にキープした池のイワナをさばいてみる

と、胃の中から青い翅がごっそり出てきて驚きました。池の周辺にはオオゴマシジミ④が沢山飛んでいて、イワナはアブラハヤの他に、水面に落ちたこのチョウをたらふく捕食していたのです。他にもコガネムシ類やコエゾゼミ⑤など、昆虫類が多く食べられていました。

タキタロウが巨体を維持するためには、小さな魚や昆虫よりも大きなイワナを捕食した方が効率的です。大鳥池の生態系ピラミッドの底辺は水中のプランクトンや水辺の植物で、次の階層がそれらを食べるアブラハヤや昆虫類、さらに次の階層がそれらを捕食するイワナ、そしてイワナを襲うタキタロウこそが頂点に君臨しているに違いありません。

タキタロウを狙うのであれば、禁漁間近の9月下旬、産卵のために遡上する（であろう）東沢⑥の流れ込み付近で、イワナに似せた大きなミノーを使ってみてはどうでしょうか？ 吉報お待ちしております。



①大鳥池のイワナ



②中ノ沢のイワナ



③アブラハヤ



④オオゴマシジミ



⑤コエゾゼミ



⑥東沢（産卵場所？）